

# 令和6年度 奥山小学校 学校評価

## I 令和6年度の取組

【知】学び合い	【徳】認め合い	【体】鍛え合い
(知識・技能) 新しい価値を生み出す ・付けた力を明確にした単元展開の共有 (思考力・判断力・表現力) 対話を通して深める ・目的を明確にした交流 (学びに向かう力・人間性等) 学びを社会や未来につなげる ・振り返りの内容の充実	(知識・技能) 自己を見つめる ・考え、議論する道徳科授業の実践 (思考力・判断力・表現力) 友達とともに輝く ・「みつけたよカード」の活用 (学びに向かう力・人間性等) 温かくかかわる ・縦割り活動や交流活動の充実	(知識・技能) 健康な心身をつくる ・自律した生活習慣の確立 (思考力・判断力・表現力) 自他の命を守る ・安全意識の向上(交通・防犯・防災) (学びに向かう力・人間性等) 目標をもって続ける ・体力の向上(なわ跳び・持久走)

## II 自己評価

○奥山小の子供たちについて

※「%」は、「とてもそう思う」「まあそう思う」の合計

評価項目	児童	保護者	教職員
1 児童は、一生懸命授業に取り組んでいる。	100%	97%	100%
2 児童は、自分の考えを发表或したり、友達と話し合っって考えを深め合ったりしている。	89%	93%	100%
3 児童は、学習したことを生活に生かそうとしている。	100%	90%	90%
4 児童は、自分のよいところ(強み)をもち、将来の夢や希望に向かって頑張ろうとしている。	97%	86%	100%
5 児童は、友達のよいところ、頑張っていることを見付け、「みつけたよカード」に書いたり、発表したりしている。	84%	87%	100%
6 児童は、学級の子だけでなく、他の学年の子とも仲良く遊び、楽しい学校生活を送っている。	94%	97%	100%
7 児童は、「早寝・早起き」をし、「朝ご飯」を食べ、元気に生活している。	100%	93%	100%
8 児童は、安全に気を付けて生活している。	100%	100%	100%
9 児童は、目標をもって、縄跳びや持久走などに取り組んでいる。	95%	93%	100%
10 児童は、自分から進んで挨拶をしている。	98%	73%	72%
11 児童は、困ったことがあるときには、先生にすぐに相談している。	89%	83%	100%
12 児童は、地域の方と関わりながら学習し、奥山の良さを見付けようとしている。	94%	87%	100%
13 学校は、学校・学級便り、ホームページやブログ等で、校内の情報を発信している。	87%	96%	100%

○職員の評価

- ・No. 1 や No. 12 の項目より、地域と関わり合いながら、教育活動を行っている成果を感じる。
- ・No. 6 や No. 8 の項目より、児童・保護者・教職員とも、学校や地域は安心できる場所であることが伺えるが、No. 11 からは、相談体制の強化が課題であると感じる。
- ・No. 4 の項目は、児童の評価が昨年度より向上している。少人数でも、お互いのよさを認め合いながら生活できている。今まで自信のなかった児童の自己肯定感の高まりが感じられる。
- ・No. 2、No. 5 (児童の評価が低い)、No. 10 (児童の評価が高い) の項目においては、児童・保護者と教職員の数値のずれが大きいので、意識の差を感じる。効率的な手立てを講じていく必要がある。
- ・No. 13 の項目については、校内の情報発信は毎日のように行っている。しかし、児童にまで伝わる工夫が必要であることが分かった。

III 学校運営協議会による学校関係者評価

- ・世の中の動きと子供の成長は以前と変わってきている。知らない人への挨拶は避けている風潮もあるが、地域の人などへの挨拶はできるようにしたい。地域の大人から声を掛けていくことも大事である。小規模校であることを長所に、できることを少しずつ増やしていけばよい。
- ・複式の授業をすることによって、児童が自分たちで学習を進めるといこともできるようになる。
- ・子供たちの様子を見てみると、言葉遣いがきつく、それに対して我慢している児童もいる。
- ・どこまで言っているか、考えることができるようにならないといけない。上の学年の子供たちが弱い子を助けるようになってほしい。
- ・学校では、いじめ防止基本方針に基づいた対応ができています。来年度も子供たちがより相談しやすい場の設定や人間関係づくりに努め、いじめ未然防止へとつなげていってほしい。
- ・学校と児童だけではなく、保護者も情報を共有して、風通しを良くしていく必要があり、学校だけの責任、児童だけの責任ではなく、保護者も含めて考えていったほうが良いと思う。
- ・家庭科ボランティアを皮切りに、地域ボランティアがより幅広い活動になっていくように、周知のための発信をしてほしい。また、協力をするにしても、具体的な内容を示してほしい。

## IV 今後の改善方策

- ・校内研修を充実させ、授業改善に努めていく。複式学級増加を見据え、子供たちで学習を進めたり、協同的に学びを深めたり、高めたりすることができるような授業を目指していく。
- ・教育活動全般を通して、自然な気持ちのよい挨拶ができる子を育てていく。委員会活動など、児童の主体的な活動を取り入れ、さらに挨拶運動の活性化を図る。
- ・縦割りでの活動や幼少の交流活動を一層充実させ、関わりの中で、進んで互いのよさを見つけて、認め合っていける子を育てていく。
- ・「心のアンケート」の様子を保護者に伝えながら、いじめの未然防止につながる児童、保護者との相談体制を強化していく。引き続き、全校体制で小さなことでも早めに対処していく。
- ・学校運営協議会と連携をしながら、引き続き、児童の学習環境をよりよく整え、地域に根差した教育活動が展開できるように努めていく。
- ・便りやブログなどに載せた活動の様子について、教師から児童へ話したり、プリントアウトした写真などを掲示したりすることで、子供たちにも伝わる情報発信を心掛けていく。